シ又ハ醫療保護事業、施設若ハ附帶事業ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ノ指定スル事業者ニ對シテハ主務大臣及地方長官之ヲ行フ

第二十六條　第五條ノ規定ニ依ル事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ同條ノ規定ニ依ル認可ヲ取消スコトヲ得

第二十七條　事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ國庫及道府縣ハ補助ヲ取消シ、既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ジ又ハ補助ヲ爲サザルコトヲ得

一　本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二　補助ノ條件ニ違反シタルトキ

三　不正ノ手段ヲ以テ補助金ノ交付ヲ受ケタルトキ

第二十八條　詐僞其ノ他ノ不正ノ手段ニ依リ醫療券ニ依ル醫療若ハ助産ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ之ヲ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ之ヲ町村長ニ準ズベキモノニ適用ス

附　則

第三十條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條　本法施行ノ際第三條及第四條ニ掲グル者ニ非ザル者ニシテ現ニ醫療保護事業ヲ行フモノ又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ三月間ヲ限リ引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ者前項ノ期間經過後引續キ其ノ事業ヲ行ハントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間内ニ第五條ノ規定ニ依ル認可ヲ申請スベシ

前項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ申請ニ對スル認可又ハ不認可ノ處分アル迄引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

第三十二條　救護法中左ノ通改正ス

第六條中「、病院」ヲ削ル

第十條第一項第二號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

二　削除

三　削除

第三十三條　母子保護法中左ノ通改正ス

第六條第一項中「養育扶助、生業扶助及醫療」ヲ「養育扶助及生業扶助」ニ改ム

〔參照〕

昭和四年四月二日公布法律第三十九號救護法抄錄

第六條　本法ニ於テ救護施設ト稱スルハ養老院、孤兒院、病院其ノ他ノ本法ニ依ル救護ヲ目的トスル施設ヲ謂フ

第十條第一項

救護ノ種類左ノ如シ

二　醫療

三　助産

昭和十二年三月三十一日公布法律第十九號母子保護法抄錄

第六條第一項

扶助ノ種類ハ生活扶助、養育扶助、生業扶助及醫療トス

勞働者年金保險法の公布

第七十六帝國議會の協贊を經た勞働者年金保險法は昭和十六年三月十一日付官報を以て法律第六十號として公布を見たが、之を掲ぐれば次の如くである。

勞働者年金保險法（昭和十六年三月十日法律第六十號）

第一章　總　則

第一條　勞働者年金保險ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ老齢、癈疾、死亡又ハ脫退ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス

第二條　勞働者年金保險ハ政府之ヲ管掌ス

第三條　本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對償トシテ事業主ヨリ受クル賃金又ハ給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

賃金又ハ給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ヲ徴收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及癈疾手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、癈疾年金、遺族年金、脫退手當金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除

クノ外民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條　勞働者年金保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

第八條　行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第九條　行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他勞働者年金保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條　行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬竝ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十一條　保險料ヲ滯納スル者アルトキハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滯金ヲ徴收ス

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ヲ納付セザルトキハ行政官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ徴收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ

第十二條　保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徴收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

第十三條　國稅徴收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ハ保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ニ關スル書類ノ送達ニ之ヲ準用ス

第十四條　政府ノ事業ニ使用セラルル者及使用セラレタル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條　本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章　被保險者

第十六條　健康保險法第十三條ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル勞働者ハ勞働者年金保險ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

一　常時十人未滿ノ勞働者ヲ使用スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者

二　勅令ヲ以テ指定スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者

三　女子

四　船員保險ノ被保險者

五　帝國臣民ニ非ザル者

六　前各號ニ揭グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル勞働者ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ノ認可ヲ受ケ勞働者年金保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得

一　前條第一號、第二號又ハ第三號ノ規定ニ該當スル者

二　健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業ニ使用セラルル者

三　前二號ニ揭グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業ニ使用セラルル者

四　前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業及前二號ノ事業ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者

前條第四號乃至第六號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ認可ヲ申請スルニハ事業主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十八條　第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ際同條ノ規定ニ依ル被保險者トシテ其ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ニ付テハ前條ノ認可アリタルモノト看做ス

一　第十六條ニ規定スル勞働者ヲ常時十人未滿使用スル工場、事業場又ハ事業ト爲ルニ至リタルトキ

二　第十六條第二號ノ規定ニ依リ指定スル工場、事業場又ハ事業ト爲ルニ至リタルトキ

三　前條第一項第二號、第三號又ハ第四號ノ事業ト爲ルニ至リタルトキ

第十九條　第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ同條但書ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日、第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ同條ノ認可アリタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第二十條　第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リ

タル日又ハ第十六條第四號乃至第六號若ハ第十七條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日（其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日）ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十一條　第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ資格ヲ喪失スルコトヲ得

前項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十二條　被保險者タリシ期間十四年以上二十年未滿ナル者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ同項ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタル日以後ニ新ニ發シタル疾病又ハ負傷ニ因ル癈疾ニ關シテハ保險給付ヲ爲サズ

第二十三條　前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間トヲ合算シテ二十年ニ達シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ準用ス

第三章　保險給付及福祉施設

第一節　總則

第二十四條　被保險者タリシ期間ノ計算ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ之ヲ止ム但シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ計算シ十六日以後ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ計算シ

前項ノ規定ニ拘ラズ被保險者ノ資格ヲ取得シタル月ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保險者タリシ期間ニ加算ス

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ左ニ掲グル期間ハ之ヲ合算セズ

一　脱退手當金ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間

二　命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ被保險者トシテ引續キ使用セラレタル實期間六月未滿ナルトキハ其ノ期間

前項但書ノ規定ハ第五十一條ノ規定ニ依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ使用セラルル被保險者ニシテ常時坑內作業ニ從事スルモノ（以下坑內夫タル被保險者ト稱ス）ノ坑內夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ付被保險者タリシ期間ヲ計算スル場合ニ於テハ其ノ實期間ニ付前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間ニ三分ノ四ヲ乘ジテ之ヲ計算ス但シ左ニ掲グル期間ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

一　前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間三年未滿ナル者ノ坑內夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間

二　坑內夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ付前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間ガ十五年ヲ超ユル場合ニ於テ十五年ヲ超ユル部分ノ實期間

第二十六條　遺族年金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條　養老年金、癈疾年金及遺族年金ノ支給ハ之ヲ支給スベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第二十八條　政府ハ事故ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ保險給付ヲ受クベキ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二十九條　保險給付トシテ支給ヲ受クル金錢ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條　保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ護渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第二節　養老年金

第三十一條　被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十五歲ヲ超エタルトキ又ハ五十五歲ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス

坑內夫タル被保險者トシテ第二十四條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十五年以上使用セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後五十歲ヲ超エタルトキ又ハ五十歲ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキヨリ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養

老年金ヲ支給ス繼續シタル十五年間ニ於テ坑內夫タル被保險者トシテ同條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十二年以上使用セラレタル者ニ付亦同ジ

第三十二條　養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ每十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前二項ノ規定ニ拘ラズ養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ五十ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十三條　養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第三十四條　被保險者タリシ期間二十年以上ナル者（第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ヲ含ム以下同ジ）ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

前項ノ規定ハ第三十九條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第三十五條　養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ養老年金ノ支給ヲ停止ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ停止セラレタル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ヲ合算シテ養老年金ノ額ヲ改定ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ額ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ額ガ從前ノ養老年金ノ額ヨリ少キトキハ從前ノ養老年金ノ額ヲ以テ改定養老年金ノ額トス

第三節　癈疾年金及癈疾手當金

第三十六條　被保險者ノ資格喪失前ニ發シタル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ガ勅令ノ定ムル期間內ニ治癒シタル場合又ハ治癒セザルモ其ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル程度ノ癈疾ノ狀態ニ在ル者ニハ其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄癈疾年金ヲ支給シ又ハ一時金トシテ癈疾手當金ヲ支給ス

癈疾年金又ハ癈疾手當金ノ支給ヲ受クルニハ癈疾ト爲リタル日前五年間ニ被保險者タリシ期間三年以上ナル者タルコトヲ要ス

第三十七條　癈疾年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ增ス每ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ於テ引續キ被保險者タリシ期

間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル癈疾年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ每十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第三十二條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

癈疾手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ニ相當スル金額トス

第三十八條　被保險者タリシ期間二十年未滿ナル者ニシテ癈疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癈疾年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脫退手當金及被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ノ合算額（被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ十三月分ニ止ム）ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

前項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第三十九條　被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニシテ癈疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癈疾年金ノ總額ガ癈疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

第四十條　養老年金及癈疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一ヲ支給ス

第四十一條　癈疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ癈疾年金ノ支給ヲ受クル程度ノ癈疾ノ狀態ニ該當セザル

ニ至リタルトキハ爾後癈疾年金ヲ支給セズ

第四十二條　養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ癈疾手當金ヲ支給セズ

第四十三條　第三十五條ノ規定ハ癈疾年金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第四節　遺族年金

第四十四條　被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第四十五條　遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

一　養老年金又ハ癈疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金又ハ癈疾年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

二　被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

第四十六條　遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者アルトキハ其ノ者ニ遺族年金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ期間ハ既ニ支給セラレタル期間ト合算シテ十年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十七條　遺族年金ノ支給ヲ受クル者ガ遺族年金ヲ受クル權利ヲ失ヒタル場合ニ於テ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ後順位者ナキトキハ左ノ區別ニ依ル金額ヲ一時金トシテ被保險者タリシ者ノ遺族ニ支給ス

一　養老年金又ハ癈疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ癈疾年金ト其ノ遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ受ケタル遺族年金トノ合算額ガ養老年金又ハ癈疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

二　被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタルニ因リ遺族年金ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ其ノ者ノ死亡ニ關シ既ニ支給ヲ受ケタル遺族年金ノ總額ガ其ノ者ノ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額

第五節　脫退手當金

第四十八條　被保險者タリシ期間三年以上二十年未滿ナル者ガ死亡シタルトキ又ハ其ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ被保險者ト爲ルコトナクシテ一年ヲ經過シタルトキハ脫退手當金ヲ支給ス但シ其ノ者ガ癈疾手當金ノ支給ヲ受クルトキハ一年ヲ經過セザル場合ト雖モ之ヲ支給ス

前項ノ規定ニ拘ラズ現ニ被保險者タル者ニ對シテハ脫退手當金ハ之ヲ支給セズ

第一項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ適用セズ

第四十九條　脫退手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ三十分ノ一ノ額ニ被保險者タリシ期間ニ依リ別表ニ定ムル日數ヲ乘ジテ得タル金額トス但シ癈疾手當金ノ支給ヲ受クル者ニ支給スベキ額ハ癈疾手當金ノ額ト合算シテ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十條　癈疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脫退手當金ヲ支給セズ

第五十一條　癈疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ第四十一條ノ規定ニ依リ癈疾年金ノ支給ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癈疾年金ノ總額ガ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脫退手當金ノ額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第六節　保險給付ノ制限

第五十二條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生ゼシメタルトキハ癈疾年金、癈疾手當金又ハ遺族年金ヲ支給セズ

第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ガ被保險者、被保險者タリシ者又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クル者ヲ故意ニ死ニ致シタルトキハ其ノ者ニ對シテハ支給セズ此ノ場合ニ於テ後順位者アルトキハ其ノ者ニ支給ス

第五十三條　被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ重大ナル過失ニ因リ又ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハザルニ因リ事故ヲ生ゼシメタルトキハ癈疾年金又ハ癈疾手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十四條　癈疾年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ診斷ヲ行フコトヲ得

正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ受ケザル者ニ對シテハ癈疾年金ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

第五十五條　養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ受クル者ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及廢疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第七節　福祉施設

第五十六條　政府ハ被保險者、被保險者タリシ者又ハ保險給付ヲ受クル者ノ福祉ヲ增進スル爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第四章　費用ノ負擔

第五十七條　國庫ハ保險給付ニ要スル費用ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ坑內夫タル被保險者タリシ期間ニ係ル費用ニ關シテハ其ノ十分ノ二ヲ、其ノ他ノ被保險者タリシ期間ニ係ル費用ニ關シテハ其ノ十分ノ一ヲ負擔ス

國庫ハ前項ニ規定スル費用ノ外每年度豫算ノ範圍內ニ於テ勞働者年金保險事業ノ事務ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔ス

第五十八條　政府ハ勞働者年金保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徵收ス

保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條　被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十條　事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ノ負擔スル保險料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十一條　事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スベキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ報酬ヨリ控除スルコトヲ得

第五章　審査ノ請求、訴願及訴訟

第六十二條　保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ中央社會保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得

前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

第六十三條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十四條　保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ中央社會保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第六十五條　本法ニ規定スルモノノ外中央社會保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十六條　審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第百五十八條第二項及第百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章　罰　則

第六十七條　正當ノ理由ナクシテ第十條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十八條　第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛僞ノ報告ヲ爲シ若ハ文書ノ提示ヲ爲サズ又ハ其ノ他必要ナル事務ヲ行ハザル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十九條　事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第七十條　第六十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附　則

第七十一條　本法施行ノ期日ハ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定竝ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條　保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ現ニ使用セラルル事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ現ニ使用セラルル工場、事業場若ハ事業ニ同日迄引續キ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ五年以上使用セラレタル者ニシテ同日ニ於テ同條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間二十年未滿ニシテ五十歲（鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑內作業ニ從事スル者トシテ使用セラルル者ニ在リテハ四十五歲）ヲ超エ被保險者ノ資

格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ五十歳(鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ常時坑内作業ニ從事スル者トシテ使用セラルル者ニ在リテハ四十五歳)ヲ超エタル者ニシテ同日ニ於テ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間六月以上三年未滿ニシテ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ第四十八條ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ脱退手當金ヲ支給スルコトヲ得但シ前項ノ規定ニ依リ脱退手當金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條但書ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但シ第二十四條ノ規定ニ依リ計算シタル期間六月未滿(第一項ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ一年未滿)ナル者ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ關シテハ第二十四條ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

第七十三條　保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日前ニ於テ被保險者タリシ期間ハ第二十四條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ニ之ヲ算入セズ

第七十四條　保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ勅令ヲ以テ定ムル共濟組合ノ組合員タル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十五條　保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ郵便年金契約ノ年金受取人タル者ニ關シテハ其ノ契約ガ郵便年金令第十四條ノ規定ノ適用ヲ受クル場合ニ於テハ本法及郵便年金法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第七十六條　退職積立金及退職手當法中左ノ通改正ス

第十一條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ勞働者年金保險ノ被保險者タル勞働者ニ付テハ其ノ二分ノ一以上ヨリ積立ヲ爲サザルコトノ申出アリタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

〔參照〕

昭和十一年六月三日公布法律第四十二號退職積立金及退職手當法抄錄

第十一條第一項

事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各勞働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツベシ

別表

被保險者タリシ期間	日數
三年以上	四〇
四年以上	五〇
五年以上	六〇
六年以上	七五
七年以上	九〇
八年以上	一〇五
九年以上	一二〇
十年以上	一三五
十一年以上	一五〇
十二年以上	一六五
十三年以上	一八〇
十四年以上	二〇〇
十五年以上	二二〇
十六年以上	二四〇
十七年以上	二六〇
十八年以上	二八〇
十九年以上	三〇〇

農地開發法の公布

第七十六帝國議會の協贊を經たる農地開發法は昭和十六年三月十三日付官報を以て法律第六十五號として公布された。之を掲ぐれば次の如くである。

農地開發法（昭和十六年三月十二日法律第六十五號）

第一條　本法ハ食糧自給ノ强化ヲ圖ル爲農地ノ造成及改良ヲ促進スルヲ以テ目的トス

第二條　政府ハ農地ノ造成又ハ改良ヲ行フ者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付スルコトヲ得

第三條　勅令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ主務大臣ハ前條ノ助成金ノ交付ヲ受クル者ニ對シ助成金ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトヲ得

助成金ノ返還ニ付テハ公共團體ニ對スルモノヲ除クノ外國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次グモノトス

第四條　農地開發營團ハ重要農産物ノ增産ヲ圖ル爲必要ナル農地ノ開發ニ關スル事業ヲ營ムコトヲ目的トスル法人トス